

鹿嶋 豪留学生が書道体験 清真学園高・中 丁寧に筆運ぶ



漢字を練習する留学生たち＝鹿嶋市宮中

続いて、留学生は「花」や「和」という漢字を書写した。書き順に苦戦しながら、一画ずつ丁寧に筆を運んだ。書きたい字の要望があり、「狐」や「父」など思い思いの字を練習した。記念として、うちわにも書き込んだ。

参加した、アイラ・レンドラムさん(16)は「筆の持ち方が難しかった。またやりたい」と振り返った。イービー・シラーさん(17)は「静かな環境でゆっくりと書いたので、リラックスできた」と満足げな様子だった。

(三上山明里)

た。黒板を筆でなぞりながら、とめ・はらいなどの書き方を伝えた。

日本文化を体感してもらおうと鹿嶋市宮中の清真学園高・中(柴山修二校長)で6月27日、留学生の書道体験が行われた。オーストラリアのカラウンドラ市にある姉妹校「パシフィック・ルーテル・カレッジ」から来た留学生18人と教師が参加し、慣れない手つきで漢字や平仮名を練習した。

両校は2004年に姉妹校となり、交互に短期留学を行ってきた。新型コロナウイルスの影響で19〜23年までは留学を中断しており、今回の受け入れは6年ぶりとなった。

体験では、同校の中田満枝さん(60)が講師を務めた。最初に、筆や文鎮、下敷きといった道具を説明し